



神奈川県環境学習リーダー会 会報

No. 53

2006年
10月 - 11月

役員会報告..... 1	て..... 8	1億2千万..... 13
新会員を迎えて..... 2	第6回親子で楽しむ環境展実 行委員募集..... 9	会員の広場
環境実践者養成講座ワークシ ョップを実施して..... 2	部会報告	環境科学センター業績発表 会に参加して..... 13
NPO 法人格取得検討委員会報 告..... 3	エネルギー部会..... 9	「酒匂川水系の水生動物」 の発刊に思う..... 14
第4回地域懇談会の開催..... 3	ケナフ部会..... 9	リレー登場
新日本石油精製、東京ガス根 岸工場を見学して..... 4	大気環境部会..... 10	一回生も元気です..... 15
地球温暖化防止活動推進員等 基礎実践研修について..... 5	水環境部会..... 11	湯河原から皆様へ..... 16
アジェンダの日 2006 の報告..... 7	廃棄物 GO3 部会..... 11	掲示板..... 16
横浜カーフリーダーに参加し	グリーン部会..... 11	編集後記..... 16
	豆知識のページ	
	グリーン購入と GPN..... 12	
	地球温暖化防止月間..... 13	

役員会報告

(事務局長 大森 勝)

● 10月役員会(10月12日)

1. 確認事項
会員数 変化なし
2. 付議事項
 - ① 「アジェンダの日 2006」への参加準備
10月21日、22日横浜産貿ホールで開催される「アジェンダの日 2006」実施要領に基づき展示内容、参加者等を決定確認。
 - ② 18年度実践者養成講座のワークショップ (WS) 実施
10月28日環境科学センターで実施される WS の実施要領、講師、スタッフの確認および WS 終了後に開かれる、K・リーダー会への入会勧誘要領を決定。
 - ③ 11月以降の地域活動サポート部の行事確認
 - ・11月7日 第4回地域懇談会(横浜地区)
 - ・11月14日 第3回施設見学会
 - ・H19年2月18日 第13回市民環境活動報告会
 - ④ その他行事
 - ・グリーン教育支援システム
現状参加校が少ないので、実施可能校があれば追加可能なので紹介してほしい。
 - ・横浜子供科学館向け H19 年度環境教室メニューの提案
メニューを提案し、子供科学館の対応を待つ。
 - ⑤ 会報 53 号企画案検討
広報部案が了承された。

3. 報告

- ① 各部会上期決算が提出された。次回内容報告する。
- ② 横浜カーフリーダー参加を報告。
- ③ 温暖化防止活動推進員等研修事業へ参加報告
- ④ 第1回 NPO 法人格取得委員会報告

● 11月役員会 (11月7日)

1. 事項確認
新入会員 18名 (18年度実践者養成講座終了時) 以上により正会員数は、180名となった。賛助及び特別会員は変化なし。
2. 付議事項
 - ① 「アジェンダの日 2006」実施結果
展示パネル及びバックデータの管理要領 (著作権含む) は今後問題となる可能性があるので、具体案を事務局が作成し次回検討する。
 - ② H19 年度「親子で楽しむ環境展」
開催場所が「新都市プラザ」(横浜そごう前広場) となり、来場者の増加は期待できるが、展示面積が狭いため展示要領等の工夫が重要となる。
次回会報で実行委員を公募し、1月より実行委員会を立ち上げ具体的に検討を進める。
 - ③ ホームページ (HP) 管理要領等
更新要領等が問題になっていたが、今回広報部長案により明確とした。(担当者、更新までの手続き、責任の所在等を決めた)
名簿、ML の管理要領は、広報部長と事務局長協議の上決定する。
 - ④ NPO 法人格取得

2月4日発行予定の公報54号にて設立趣意書(案)を提案する。

広報55号と同時に定款案、予算案、事業計画案等も発送する。

- ⑤ H19年市民環境活動報告会
基調講演案、発表申し込み状況の報告があり今後調整することで了承された。
- ⑥ H19年度夏休み子供体験教室

12月末までに基本計画は決定され、2月応募締め切りとなる。

3. 報告
- ① K・リーダー会が、かながわ地球環境保全推進会議・実践行動部会の幹事に選任された。
 - ② 各部会上期決算内容報告
事務局より各部会の概要報告があった。

☆☆

新会員を迎えて

代表 安丸 元一

新会員の皆様 ご入会おめでとうございます。
(敬称略)

石切山 育子	塩田 仁	野村 安子
伊藤 富男	白石 梓	羽地 朝新
上野 一郎	鈴木 和美	二村 莊司
川嶋 弘	高寺 勝夫	三浦 雄二
北村 陽子	千葉 雅子	熱海 宗信
日下部 雅省	成井 正人	山本 和代
		柳 由美子

神奈川県環境科学センター主催の環境実践者養成講座が例年の通り10月末に終了しました。40名近くの環境学習リーダーがお育ちになり、当会も多くの新会員をお迎えすることができました。終了された方々にお祝いを申し上げますと共に、今

後のご活躍をお祈りいたします。

既にご存知の様に、当会は県下全域に190名を越す会員を有し、環境問題に対する幅広い知見を持った市民活動団体としては他になく、各方面での活躍は類を見ません。我々県民が目指した持続可能な社会実現に向かう道しるべ「新かながわアジェンダ21」は4年目、また世界的枠組み条約の京都議定書発効3年目が来ようとしています、その現状は満足するものでなく、我々に課せられた任務は計り知れません。この様な時期、我々の母センターである環境科学センターをはじめ、当会の置かれた状況も変わりつつあります。この機会を好期と考え、当会の発展のため法人格取得を考えています。新会員の新鮮で活発なご協力、ご支援を戴き、全会員が一丸となって将来の持続可能な社会構築のために働こうではありませんか。

☆☆

『環境実践者養成講座』 ワークショップを実施して

近藤 作司(綾瀬市)

今年度の『環境実践者養成講座』は、9月30日から毎週土曜日5回にわたって開催された。本講座の最終日(10月28日)のワークショップ(WS)の講義並びに実習講座を担当した。K・リーダー会の協力の下、昨年と同様「グループワークによる学習」を進めた。

地域での環境保全活動を進める上で、課題解決などに応用できるWSを実際に体験し、即実践可能な内容で取り組んだ。講座のテーマは「WSの進め方(講義)とWS(実習)」とした。ファシリテーターはK・リーダー会の大森 勝、安藤 紘史、鎌田 裕二、荒谷 輝正、猪股 満智子、吉田 栄一の皆さんにお願いした。

「WSの進め方」から講義に入り、本日の講座の

目的、グループワークの進め方を解説。その間ファシリテーターによりグループ分け作業に取り掛かった。今回のグループ分けのテーマは、前週末までの講座の内容と「新アジェンダ21 かながわ」の11分野21目標を加味して選択してもらうことにした。受付時提出された希望テーマなどを記入したワークシートを分類し、6グループを編成した。

- (A) みどり・つち 5名
- (B) エネルギー 5名
- (C) ごみ(廃棄物) 4名
- (D) 環境教育・環境学習 5名
- (E) 水・大気 5名
- (F) 環境マネジメント 4名

受講者はテーマごとのテーブルに移動し、ファシリテーターのリードでアイスブレイク、テーマの課題や問題点の抽出、課題解決法の一つである「ブレインストーミング」や[KJ法]などの手法を実習した。各グループとも意見交換やアイデア出しなど活発に行い、殆どタイムスケジュール

通りに進行した。グループによっては意見交換に充分時間を掛けポストイト書き込みや模造紙への貼り出しを最小限に工夫したところもあった。手法は固定したものではなく、グループの特色があつて良かった。

最後に各グループの課題解決の方策や実践活動の取組みを発表し、合わせてグループ員各自の実践プログラムの発表または決意表明があつた。フロアからは発表に対する質問や意見、それに対する発表者の回答や発言があり活発な質疑応答であつた。

実践者として活動の中で活用されることを期待してWS体験学習を終了した。

終わりにこのWS実習へのふりかえりシートを記入して頂いた。今回の講座出席者35名中WS講座出席者は28名でした。選択式該当評価の数値を記載する。

☆☆

NPO 法人格取得検討委員会 報告

副代表 吉田 榮一

平成18年度の神奈川県環境学習リーダー会（以下K・リーダー会とする）総会において、K・リーダー会のNPO法人格取得について検討することが承認された（第51号会報に記載）。このNPO法人格取得を検討する委員を募集した結果、高橋尚道様、石山れいし様が応募され、役員会から安丸、大森、吉田（まとめ役）が加わって委員会を構成することになった。

NPO法人格取得検討委員会を開催して検討した結果を10月役員会に報告した。この会議においては基本的にはこれからのK・リーダー会発展のためにはNPO法人格の取得が必要であること、また現行K・リーダー会の規約や活動方針をほとんど踏襲する方向でNPO法人格を取得するという基本方針、並びに平成19年度のK・リーダー会総会でNPO法人格取得についての議案を提出することが

☆☆

第4回地域懇談会の開催—横浜—

地域活動サポート部 香川 興勝

11月7日 かながわ県民センターで第4回地域懇談会を行った。この会は、主として開催する地域の会員に出席していただき、活動内容の紹介や本会発展のための建設的な意見・要望を話合うと

判定 5: おおいに 4: やや～あり 3: 普通
2: あまり～ない 1: 殆ど～ない
—5 —4 —3 —2 —1

☆ 今回のWSは今後の役に立ちますか？

1 6 9 1 2 0

☆ 楽しかったですか？

1 7 7 2 2 0

☆ WSの内容は充実しましたか？

1 6 8 2 2 0

☆ 知人に参加すべきと勧められる内容でしたか？

1 4 9 2 2 1

当日ファシリテーターとして参加した会員は一律に「今回の参加者によるグループはグループワークに非常に積極的でファシリテーターは潤滑剤としてだけグループワークに参加するだけで各グループの意見がまとまった。」との印象を持った。

承認された。

今後の予定：

1. 1月下旬～2月上旬：NPO法人格取得に関する意見交換会
2. 2月上旬：設立趣意書、会員種別の説明書とその意向調査書送付（会報に同封）
3. 4月中旬：NPO法人格取得に関する書類一式送付（総会資料と会報に同封）

皆様からの積極的なご意見を期待しています。

お問い合わせおよびご質問・ご意見は随時安丸代表または吉田まとめ役宛にE-メール（件名の頭に「NPO化の件」と必ず記入してください）またはFAX（文章）でお願いします。

安丸：genichi-1 @ nifty.com

FAX 0467-86-3871

吉田：ey-yoshida @ c3-net.ne.jp

FAX 045-844-9622

ともに会員相互の親睦を深め、今後の活動に生かして行くことを目的にしています。もちろん、開催地域以外からの会員の出席も期待しています。

今回は63名の会員が在住する横浜で開催したので、多数の会員の参加を期待したが総数18名だった。

グループの活動報告は「神奈川県環境問題を考

える会”を代表して児玉さんが紹介してくださいました。さらに横浜・川崎在住の会員から活動事例が紹介された。

具体例として、神奈川県下における大気汚染と小児喘息の実態や環境科学研究所報告など参加者の関心を集めた。紙面の都合で多くを紹介できないが、活動は大気環境保全、家庭における省エネ、環境教育や自然環境保全が主体で、地道な実践活動に基づいて着実に実績をあげておられることに感心した。

一方グループ活動では、多くのグループの共通の課題として、会員の高齢化・新入会員が少ない

ことや実践会員の少数化が問題点となっている現実が示された。

また、意見交換会ではK・リーダー会の“NPO法人格取得検討会”の現状報告があり討論されたが、設立の目的や設立後の体制や活動イメージが不明確な点が多く、来年の総会前に説明会等を行うなどの必要性を実感した。

さらに行政との連携（横浜市地域温暖化防止対策推進協議会や横浜市環境教育学習プロジェクト）や行政による市民活動補助金制度の有効利用など、数多くの提言があり有意義な会合であった。

☆☆

施設見学会 “新日本石油精製（株）、東京ガス（株）根岸工場”を見学して

地域活動サポート部 香川 興勝

今年の施設見学会は、①日本における最大級のエネルギー供給施設の実態を把握すること、②企業における二酸化炭素削減、環境保護および安全管理の実態を知ること、を目的に次の二つの工場を見学した。

- ・新日本石油精製（株）根岸精油所
- ・東京ガス（株）根岸工場

快晴に恵まれた11月14日（火）参加者21名がJR根岸線・根岸駅に集合し、午前中に新日本石油精製、午後に東京ガスを見学した。

新日本石油精製では全体の様子をビデオ鑑賞し、工場内をバスで見学したあと環境安全グループ長（駒形様）出席のもと、約20分間質疑応答した。

この精油所は敷地面積220万m²（東京ディズニーランドの約5倍）で総理立地。原油処理能力は日産54,000klで日本最大の処理能力を持つ工場。社員は628名、協力会社員650名で合計1,278名。製品はガソリン・各種軽油・アスファルトなど300種以上。この他に500億円を投じて建設したアスファルト（残渣油）を燃料とし、全発電量を東京電力に販売している発電能力43万1450KWの電力事業を行って多角化をはかっているとの説明を受けた。

通されたENEOSホルルの壁面には“品質方針”、“環境方針”、“安全方針”が掲示してあり、この工場がこの三分野に注力している姿勢が読み取れた。工場の山手には、民家が密集している地域のため、民家と工場の境界線上には緑地帯（グリーンベルト）とともに、約40メートル水を噴き上げるパイプが何kmにもわたって設置され、工場火災の際には“水の壁”が出来るようになっ

ていると言う説明を聴いて驚いた。

製品の出荷輸送は貨車20%、自動車20%、海上60%で自動車輸送を大幅に削減して製品輸送時の二酸化炭素排出量を抑制している。さらに、ISO14001（環境管理）、ISO9001（製品の品質管理）の認証をえて、日夜安定なエネルギー供給の一翼を担っていることがうかがえた。

午後は小さな湾を隔てた向かいの東京ガス根岸工場を訪問した。東京ガスの天然ガス自動車で磯子駅東口から、我々を送迎してくれた。

この根岸工場は、首都圏のガス需要の増加と環境問題に対応するため日本で最初に液化天然ガス（LNG）を導入した工場です。受け入れたLNGの8割を都市ガスとして、残り2割を発電用燃料として供給しており、東京ガスの根岸工場・袖ヶ浦・扇島の3工場で東京・神奈川・千葉・埼玉等1都8県の都市ガスの全量を供給している日本最大の都市ガス事業者。その導管は総延長50,000km以上だそうです。

この天然ガスの特長は石油・石炭と比較して、燃焼時に地球温暖化や大気汚染の原因となる二酸化炭素や窒素酸化物の排出量が少なく硫黄酸化物を全く排出しないクリーンエネルギーです。（図

■環境負荷の低いエネルギー「天然ガス」

石炭を100とした場合の排出量比較（燃焼時）

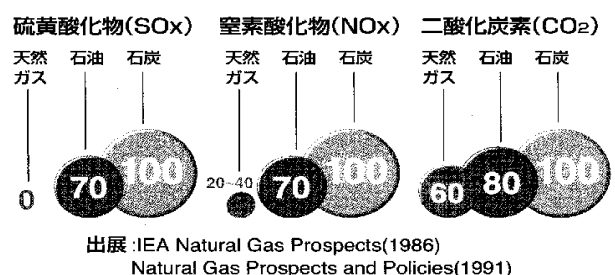


図. 環境負荷の低いエネルギー「天然ガス」

参照)

また、根岸工場では「コージェネレーション設備」と「冷熱発電設備（マイナス162℃の冷熱を利用）」により工場で使用される電力の7割をまかない省エネを実現しているということです。天然ガスは長期・安定的に確保出来るエネルギー（不安定な中東からの輸入は2割で石油より少ない）で、液化することにより体積を1/600に出来るのでLNGにして輸入しているのだそうです。

この工場でも全体の様子をビデオ鑑賞し、工場内をバスで見学したあと環境安全マネージャー（今崎様）出席のもと質疑応答した。質疑応答では・新しいガス田の探索の有無・燃料電池普及年の予想・排水処理法・ガスの名前の付け方・ドライアイス生産量など多くの質問に適確に答えていただいた。

見学では環境保全設備として①大気汚染対策 ②排水管理 ③臭気対策 ④防音対策が確実にされていることが確認できた。

また、LNGによるステンレス鋼の収縮実験やLNGを利用したマイナス61℃の冷凍マグロ保存庫内での1分間体験などを行って15時過ぎに施設見学会を終了した。



☆☆

地球温暖化防止活動推進員等基礎実践研修について

代表 安丸 元一

平成18年度、地球温暖化防止活動推進員等の研修事業は、神奈川県地球温暖化防止活動推進センター（かながわアジェンダ推進センター）が主催し、地域実践研修、基礎実践研修、専門実践研修と3種類で実施しております。今回は、基礎実践研修を各講師はじめ皆様のご協力、ご支援を戴きながら担当しています。第1回が9月に終了しましたので、ご参加戴いた方々のご感想を述べて戴きます。（受講者数：41名）

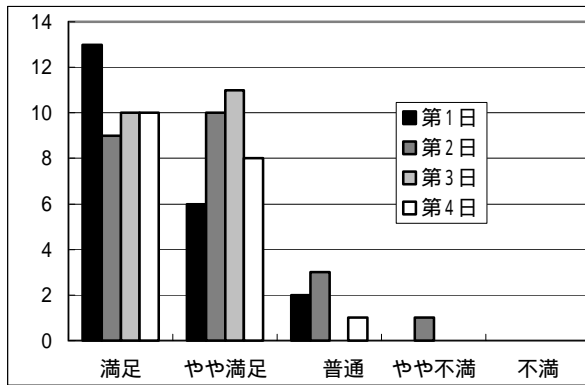
なお、第2回を同様の内容で年明けに開催します。第1回同様ご協力、ご支援をお願いします。

講師

神奈川県 環境計画課長 高久 道男
（財）省エネセンター・部長 渡辺 徹
当会・前代表 近藤 作司

当会・副代表 香川 興勝
当会・エネルギー部会長 安藤 紘史
当会・グリーン部会長 杉山 陽絵
当会・前自然環境部会長 岩田 寿郎
当会・廃棄物G03部会長 原園 信夫
事務局
当会・前地域サポート部長 木本 光和

第1回基礎実践研修の満足度



地球温暖化防止推進員向け講師基礎講座（1回目）を終えて

エネルギー部会 安藤 紘史

ある日、安丸代表から「神奈川県地球温暖化防

止活動推進員向けセミナーを企画しているので、その具体策について一講座を受け持つように」との依頼が飛んできた。日々活動しておられる方々の前で、活動歴の浅い私で勤まるかな？との不安もあったが、「受講者と一緒に考えるつもり」で

お引き受けした。そして、「啓発活動をする上で役立ちそうな事」に絞った内容とすべく次の点に重点をおいたカリキュラムとした。（その為に一般論は省略）

- ・エネルギー浪費が当たり前の中、（しかも情報過多の時代）頭では分かっている一般の人達に生活を振り返ってもらうには「何かを感じてもらう」ことから始める必要がある。そこで、役立ちそうな映像、実験等の紹介に重点を置く。
- ・説得力を持つ為には自己体験が最も有効で、かつ活用場が広いので、そのお薦めとしての体験事例の紹介
- ・エネルギーは目に見えないので分かりにくいと言われる。その対策として分かり易い表現事例ただし、どの講座にも新エネルギー全般の説明

が無い事に気づいたので、急いで追加した。その結果、時間的に窮屈となった。

時間が短く不慣れな講座ではあったが、受講生が推進員の方々にレベルは高く、かつ熱心だったので、無事終える事ができた。今後の活動に少しでも役立てば、大変有難いと思います。

また、この基礎講座の一連の講師はK・リーダー会の人々が主体であり、全体のカリキュラムからも、K・リーダー会らしく、多面的視点から環境を把握しようとしている事が伺われる。このスタンスは、広い視野でかつ息永く続く活動につながるものと確信します。

もし、受講対象者にお心あたりの方は、2回目の基礎講座が1月に開催されるので、受講を勧め下される様をお願いします。

他の研修と今回の基礎実践研修を受講して思うこと

温暖化防止活動推進員 佐々木 邦夫

私は、以前から、行政・企業の担当者や学者・学研者等の集まりである、幾つかの環境研究会に参加してきました。

一昨年より、一般市民の方々に少しでも環境の重要性を知ってもらえればと2つの環境講座等の企画・実践に参加しました。しかし、参加者は常連さんや内部担当者がほとんどで数名が新規市民である事を知り、環境に関心を持ってくれる人を集めることの大変さをしみじみ感じました。

そこで、昨年、「環境実践者養成講座」（環境科学センター）「環境活動団体設立・ノウハウ研修」（横浜市環境創造局）および地球温暖化防止活動推進センター主催の下記の2つの研修に参加しました。

「エコライフスクール企画開催実践研修」は、これから環境講座を開催したい人の入門講座であり、「パートナーシップ実践研修」は、上記研修修了者がより活動の場を広げる為の研修でした。

これらの研修は、私の抱える難問を大きく解決の方向へ導いてくれました。

私は、私的问题が発生し、中々参加はできませんが、上記研修修了者で「横浜 ELS」の会を作り、環境に限らない各種団体と協賛・支援の形で、多

くの環境講座を開催し始めており、新たな市民の方々に環境に関心を持ってもらっています。

今年の「基礎実践研修」は、9月6日から25日までの4日間で行われました。

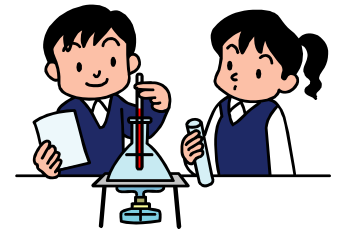
この「研修」は、「学習リーダー会」の企画で、昨年までと主旨を異なり、市民への関心を誘い（生活の中で）対策を進進するよう動機付け（実践）する為に、基礎的な知識とスキルを身に付ける事を目的としたものでした。

失礼な言い方になりますが、今回研修は、主旨が漠然としており、昨年までのような発展的な成果が見られなかった様に感じられました。

冬フツンの入れ換えが1ヶ月も遅くなっており、うまい米の産地は北上しております。

この様に、肌身に温暖化が感じられる昨今、環境に関心を持ってくれる人々を増やす為の「リーダー」の増加は不可欠な要素と言えましょう。

また、昨年までの研修を受けた方々の中にはスキルアップの為の「研修」を期待している方もおられると思いますので、継続性・一貫性があり、発展的な成果が見られるような昨年までの研修方式に近いものにするのが良いのではないかと考えています。



平成 18 年度 基礎実践研修に参加して

温暖化防止活動推進員応募（横浜地区）黒川 克彦

平成 18 年度基礎実践研修に参加し、研修に対して以下の通りの感想を持ちました。

私の場合未だ準会員であり、これから温暖化防止活動についての勉強をしなければならない立場であったため、今回の4日間の研修は意味が大きかったと思います。

温暖化防止に関わる非常に広範囲に及ぶ内容を効率よく勉強することは、私のような活動の初心者にとっては大変難しいことです。その意味では第1日目に全容の講義があり、特に午後の二つの講座は内容の濃いものであったと思います。終了時間を1時間遅らせても、もう少しじっくり聴きたかったと思っています。

また内容だけでなく、講師の方のこれに取り組む熱意が伝わってきて心動かされるものがありました。単に資料を読むだけでは得られない、研修ならではの力ではないかと思いました。

また2日目の座間のパークセンターでの研修も、内容については、こうしたらどうか、との私個人

の要望はあるにせよ、気分も変わって変化のある研修になったのではないかと、思います。

後半の2日間の研修は一部、講座の内容から午前と午後を入れ替えたほうがよかったのでは、と思いますが、プレゼンテーション、ワークショップの活動の実践講座は、これから具体的に活動してゆくことを目指している私にとっては実践的な勉強になりました。温暖化防止活動成功の鍵は、この地道な取り組みに対して、いかに一般人に持続的に危機感と関心を持ってもらうことが出来るか、に掛かっていると思っていますのでその意味でこの後半の2日間の講座の位置付けは大切だと思いました。

今回の研修は部分的には時間が足りなかった面もありますが、全体としてはバランスのとれた効果的な研修だったと思いました。

☆☆

「アジェンダの日」の報告

狩野 光子(厚木市)

県主催の「アジェンダの日 2006」が10月21日～22日、地球の温暖化を知り、考え、行動しよう！と、横浜産貿ホールで行われました。リーダー会も昨年に続き、9ブロックごとに、6つの環境データを表示したパネルを作成し参加をしました。会場では「風呂敷の包み方教室」「環境戦隊☆エコレンジャー」など賑やかに行われ、両日で合計3,054名の来場者があったようです。

パネルは昨年に続き、NO₂と化学物質の情報は大気環境部会、エネルギーはエネルギー部会、ゴミは廃棄物GO3部会、緑地率は自然環境部会、今回水は安藤さんに、光化学スモック注意報は高橋さんに、人口と面積は吉田さんに調査をして頂きました。また、肝心のCO₂の排出量のデータが無いことも分かりました。

今年は、“声を出せない、こども達のこころ”の部分も表現したいと考え、“リーダー会の地球をまもる君”というキャラクターを創って、9ブロックの環境汚染度を‘涙’の数で表現してみました。

予想通り、汚染度が高いと評価がでたのは、川崎、横浜で人口密度と深く関連していました。

ドイツではベルリンのような大都市でも緑地率が50%近くあるそうですが、10%以下のところが4ブロックもあり、びっくりしました。郊外の自然は県全体の宝として保全する必要があると言われていますが、納得です。

インターネットで公開して欲しいという要望もあり、今後このパネルは役員会でどのような形で生かしていくか話し合っ、有効に利用して頂けましたら幸いです。



大イベントですので、時々心細くなったりしましたが、役員をはじめ環境科学センターの野崎さんたちがパネルの印刷に一日中お付き合い戴き、「たいへん！」と言いながらもみんなの優しさに感謝の気

持ちで一杯になりました。

会場では普段では出会えない方との交流や、久しぶりでお会い出来た方もあり、有意義な2日間を過ごさせて頂きました。

来場者のアンケートから・・・

- * 一般市民の具体的環境問題に対する関心、理解度はまだ低いと思います。
- * 緑地 10%以下に大和ブロックが入るのは意外だった。
- * 地味ですが大切な活動だと思い感謝いたします。



☆☆

横浜カーフリーデーに参加して

井上 勝義(横浜市)

9月23日(土)に横浜カーフリーデーが開催されました。前日は天候が悪く開催が危ぶまれたが予定通り実施された。当K・リーダー会も参加したので御報告します。

今年のイベント会場は、横浜公園(横浜スタジアム横)と日本大通り、今年初めて伊勢佐木町商店街の3箇所でした。

横浜公園では、主催者の本部や私達参加団体がテントを張り展示しました。

私達の隣りには、当会の会員が所属している、アース・エコやアイドリングストップもありました。他にはスタンプラリー、ボーイスカウトによる子供の遊びコーナー、福祉車両の展示、ソーラー実験コーナー、フリーマーケット、ウォーキング、大道芸、ミュージックアート舞台では詩吟や太鼓で会場を盛り上げていました。

日本大通の会場では、自転車の試乗会、インリースケートの体験コーナーがありました。伊勢佐木町商店街の会場はカーフリーデーのパネル展示、ちびっ子バス、クイズを行っていました。

さて、当会はテント一張りの中にパネル8枚展示し、私達の活動を紹介しました。これは昨年エコタウンで使用したパネルを利用し、改良と工夫をして分かり易くしました。県下9ブロック全部は場所の都合で展示できませんので、横浜地区、横須賀・三浦地区、厚木・愛甲地区、県西地区の4枚とまもる君の

説明図1枚と、大気環境部会の大気汚染の仕組みと、県下NO₂測定マップの2枚と合計8枚です。パネル展示をして感じた事は、テント前は会場の通路であり沢山の人が通りすがりますが、テントの中で見てくれる人が少なかったです。ただ入った人は関心があるようで熱心に見てくれました。テントの中に入らずとも入口に展示の内容が分かるノボリや横断幕など必要かなと思いました。

私事ですが、カーフリーデーは毎年参加し今年で3回目です。1回目、2回目はウォーキングのスタッフをしました。カーフリーデーの参加団体は今年60とか、年々増えているようですが悩みは横浜市や神奈川県への助成が無いので、財政面で苦労しているようようです。収入は参加団体の加入料や企業の寄付、カーフリーデーのイラストの入ったTシャツを作り販売しています。

今回パネル制作や展示にご協力戴いた安丸様、吉田様、狩野様、立石様に感謝申し上げます。



来年6月開催予定「第6回 親子で楽しむ環境展」実行委員募集！！

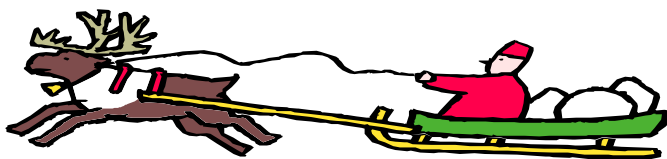
～新しい会場での開催のため

新しい企画を求む～

広報部 鎌田 裕二

「地球の未来のため」をテーマとし毎年K・リーダー会が主催する「親子で楽しむ環境展」が来年度第6回目の開催を迎える。前回に対する反省の結果、次回は集客がより望める会場での開催を予定している。

「第6回 親子で楽しむ環境展」の開催予定は以下の通り。



☆☆

部会活動

エネルギー部会

部会長 安藤 紘史

「今年度は7名もの方々に入会していただきました。協力して、より充実した活動を目指します。」

活動予定（'06年12月～'06年1月）

定例部会（於：県民サポートセンター）

（一部日程調整中。ご参加の方は部会長へ要確認）

12月12日（火）14：00～15：30 702号室

1月9日（火）14：00～15：30 702号室

2月13日（火）14：00～15：30 702号室

見学会

東京電力横浜火力発電所と麒麟麦酒見学

12月5日（火）12時35分 鶴見駅市バス停

研鑽と、各自の活動における活用方法を求めています。

清涼飲料用自販機調査

自販機に表示されている年間表示電力量と実消費電力量に大きな差がある事が会員の調査で判明。JISに問題がある可能性が高い。実体把握のために調査事例

日時：6月16日（土）

場所：横浜駅東口「そごう」入口

「新都市プラザ」

来年1月より実行委員会で内容を企画する予定。実行委員長には安丸代表が就く。安丸実行委員長によると「K・リーダー会として初めて使う会場のため、展示内容の企画に新たな創造的な発想が必要。来年1月に実行委員会を設けて企画を進めたい。会員の皆様も実行委員会に参加して欲しい。委員として参加していただける方を募集します」。応募は安丸実行委員長宛てに12月20日まで。第1回の実行委員会は1月11日（木）午前中に開催予定（詳細は別途連絡）。

を増やすべく部会員が協力する事とした。

活動報告（18年8月～18年9月）

10月度定例部会：

10月11日（水）13：00～15：00

場所：県民サポートセンター 702号室

参加者：岩澤、小田、鎌田、北村、児玉、藤木中島、安藤、

①上期決算報告。

②「アジェンダの日2006」打ち合わせ。

中国の環境に関するセミナーの報告。

アジェンダの日2006

10月21日（土）、22日（日）横浜産貿ホール

K・リーダー会の一員として参加

11月度定例部会

11月8日（火）13：00～15：00

場所：県民サポートセンター 703号室

参加者：北村、大森、鎌田、小田、岩沢、二村、上野、高寺、野村、安藤

① 新部会員紹介と会の紹介

② 見学会打ち合わせ

③ 自販機に関する情報交換

ケナフ部会

ケナフ部会長 荒谷 輝正

ケナフ部会員が携さわった 2006年10月～2006

年11月までの活動、及び12月～2007年1月迄の予定について報告します。

1. ケナフ部会定例会

◎藤沢市立高谷小学校4年生（3クラス）総合学習授業・・・小糸昌子

6/14 あらかじめ準備しておいたポット苗で発芽したものをプランターにマイケナフとして一人1本ずつ移植した。

10/20 自分のケナフを収穫して皮むき、たたき、刻み、ミキサー攪拌作業をする。(ケナフの成長は1m~3m、太さは直径1cm~3cm)

10/28 先生方の要望で学校一般公開日に「紙漉きの実演を兼ねて生徒と「ハガキ」、「シオリ」を一人2回ずつ体験。飛び入りで保護者も参加。

◎11/19 横浜市港南区野場地区センター体育館で第20回ふるさと・のぼ「福祉の集い」で「ケナフの紙漉き体験コーナー」100人以上の参加有り、盛大であった。・・・小川正敏

◎11月25日定例会開催。ケナフの刈り取り及び12月9日の平塚リサイクルプラザでの「くるりん祭り」の準備

2. REWOOD クラブの活動状況

◎10/17 リハビリ「野ばらの会」で REWOOD クラブで材料提供した貯金箱、化粧箱作りを実施して大盛況であった。ちなみにリハビリ「野ば

らの会」会は高齢者の手足の不自由な方々に手足を使った作業(絵手紙、ブーケ作り、書初め等)やゲーム、近距離旅行をする会です。小川正敏

◎REWOOD クラブで週2回作業しています。何か作ってみたい方は予め、ご連絡ください。作業内容はホームページ

<http://members2.jcom.home.ne.jp/rewood/>をご覧ください。

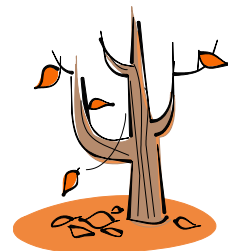
3. 今後の予定

◎12/9 平塚リサイクルプラザでの「くるりん祭り」でケナフ紙漉き」体験参加

◎12月 横浜市港南区野場団地で、幼児を対象の「公園あそびサポート」ボランティアクラブで古紙を使った「紙ぽっくり」つくりと遊び実施

◎12月ケナフ部会例会予定 圃場整理と来年の耕作準備

◎1月ケナフ研修旅行予定



大気環境部会

部会長 猪股 満智子

活動予定

部会員以外の方もご参加ください!

11月27日(月)13:00~16:30 環境科学センター
学習会終了後;実習室で測定用ろ紙充填作業

12月7日(木)夕方~8日(金)夕の24時間測定

12月16日(土)13:00~16:30 環境科学センター
NO₂測定分析

自然度調査「ジョロウグモ」 まだ間に合います。ご協力ください!!こちらホームページ化

調査方法:自宅敷地内又は調べたい所で見つけたジョロウグモのオス♂♀各総数と各住所をご報告下さい

報告先:猪股宛 tel&fax 0467-32-6858
e:mail: km_inmt @ ybb.ne.jp

特徴:コガネグモ科、馬蹄形(U字形)、三層構造の網。メスは尻尾にかけて赤く、派手で大きく初冬には3cm程に。

調査期間:9月~12月末、報告:1月20日

12月17日(土)13:00~ 関内 開港記念会館
NPO 法人アジェンダ推進センター主催「地球温暖化防止の集い」“そら”の運営役と会・部会活動の発表

1月25日(木)13:30~16:30 NPOセンター大船
定例部会;各調査の総括と次年度に向けて等

活動報告

9月21日(木)13:30~16:30 NPOセンター大船
定例部会;出席;井上、草野、近藤、佐伯、佐藤、立石、猪股の7名

6月度測定評価 共通地点をマップに優先入力のため、測定点を整理、減らし319地点に設置。その上マップ上で測定点が重なる箇所を入力点からはずしたため、有効入力地点は196と減少する結果となった。

測定結果は年々少しずつ改善の方向

10月21,22日「アジェンダの日2006」展に出展



水環境部会

部会長 齊藤 昭一

酒匂川探水隊 10月、11月の活動予定・報告

【活動予定】

平成19年2月24日15時より、環境科学センターにて「水環境部会」の会合を予定しております。当部会活動にご興味のあるかたのご参加をお待ちしております。

【活動報告】 水環境部会 浦井 奈美恵

10月8日、11月3日ともに快晴。第4・5回目の探水活動を行った。JR松田駅に9時集合。参加は石綿研究員、齊藤、杉崎、古谷、浅岡、猪俣、浦井の7名。車に分乗し飯泉橋下流へ向かった。私にとっては1年半ぶりの参加であり快晴の秋空のもと心が躍った。

10月、まず環境科学センターの石綿研究員よりこれからの5年間をかけて、酒匂川・相模川を中心とした「河川の連続性」についての調査や新種、奇種、珍種の発見ができるかどうか専門的な活動をしていくというお話をいただいた。調査ではオオヌマエビ・ニホンヨコエビ・モズクガニ・ヨシノボリ・モノアライガイ・ヒメモノアライガイ他が採集

された。

11月、川音川に寄りサカマキガイ・コモチガワツボを採取、飯泉橋下流酒匂川運動広場でドジョウ・ザリガニ・ヌマエビを大量採取した。つぎに小田原大橋でマハゼ・テナガエビ・ヌマエビ・ミナミヌマエビを採取。

川の中で調査をしながら齊藤さんが昔の話をしてくれた。子供の頃は川が最高の遊び場であり、また食卓のおかずを得る所であった。それを聞き幼い頃の夏の夜、小田原の知人の家の近くの小川で見たまぶしいくらいの蛍を思いだした。10年くらい前に子供に蛍を見せたく小田原のイベントへでかけた。蛍は数えるほどしかいなかった。昔と水環境が違うからだろうと思った。

未来を担う子供たちや孫たちにこんなにも汚してしまった地球を残してよいのだろうか？魚たちと泳ぎたわむれ、おびたしい数のまばゆい蛍を見せてあげたい。



廃棄物GO3部会

部会長 原園 信夫

【計画】部会開催 1月中旬開催予定（場所:平塚市民活動センター）

- ・ゴミ分別カレンダー分析について
- ・こども体験学習について
- ・消費者教育支援プログラムについて
- ・家電リサイクル法の情報交換 他

【報告】

1. 11月4日部会開催報告

今回、養成講座 修了者の入部4名。そのうち高寺勝夫さんが参加してくださいました。

会議内容：47市町村の容り法の扱いの違いについて調査することを確認。また県が毎年まとめる「廃棄物処理事業の概要」の分析につい

て、検討を進めることを確認した。

2. 産構審・中環審 で家電リサイクル法の見直し論議中

主な内容：

- ・9月にも答申案をまとめる予定であったものが、役800万台の隠れたフロー等（家電リサイクルプラントで処理された台数は12百万台、回収されるべき理論台数約2千万台、輸出2百万台、不法投棄17万台）、としたとき、どこに行ったか分からない台数が多すぎる。審議会は、大阪方式、家電リサイクル工場、輸出会社等を調査中。
- ・今後の方針、まだ未定。

グリーン部会

部会長 杉山 陽絵

<今後の活動予定>

- ・12月 ミーティング(日程は、お問合せください)
- ・1月～2月 グリーン教育支援制度により小学校で授業を実施予定

・1月20日 地球温暖化防止活動推進員・基礎研修にて「グリーン購入と温暖化防止」を担当予定
◎上記2つのプログラムに向けた準備作業を12月に行います。

ご興味のある方は、ぜひ杉山までご連絡下さい。

<活動報告>

10/20-22 湘南ひらつかテクノフェア 2006 出展

紙芝居の上演

10/23 ミーティング

- ・ 9/16 実施の地球温暖化防止活動推進員
- ・ 基礎研修
- ・ ふりかえり、課題出し
- ・ 11/23 講座内容の検討

11/23 西友の協力を得て、鎌倉市七里ガ浜自治会・子ども会と共催で「食べ物たんけん隊！」を実施（翌日の神奈川新聞に記事掲載）

11/26 神奈川県環境科学センター主催環境実践者支援講座「資源循環型社会コース」にて、当部会の活動を紹介

☆☆

= 豆知識のページ =

グリーン購入とGPN

グリーン部会 杉山 陽絵

みなさんは、買い物するときどのような点に注意して商品を選びますか？価格、品質、デザイン、使いやすさなど様々な判断基準があると思いますが、その中に「環境への負荷が小さい」という基準を入れ、環境に配慮した製品を優先的に購入しようというのが、グリーン購入です。

私たちの暮らしは、「ものやサービスを買う」という行為を通じて、世界とつながっています。毎日の暮らしの中でグリーン購入を心がけることは、私たちの生活スタイルを環境配慮型にするだけでなく、環境配慮型商品の市場を広げ、売り手や作り手に環境配慮型製品の開発を促すことにつながります。毎日の選択の積み重ねが、「大量生産、大量消費、大量廃棄の社会」を、環境負荷の小さい製品やサービスが積極的に提供される「持続可能な循環型の社会」へと変えていく力となっていきます。

買い物は大人も子どもも、企業も自治体もみんなが日常的にしている行動。誰もがすぐに始めることができます。環境のことを考えた買い物は、自然への思いやりや作っている人への感謝の気持ち、物を大切に作る心にも通じるもの。自分の興味のあるところから、できる範囲で少しずつ、環境のことを考えた買い物をすることは、きっと今まで見過ごしていたもの、見えていなかったもの、忘れていたものが見えてくるような気がします。

さて、日本で「グリーン購入」の考え方が広まるきっかけとなったのは、1991年に京都の「ごみ問題市民会議」が京都市内の全スーパー 204店の環境対策や環境に配慮した商品の品揃えを調べた「かいいものガイド この店が環境にいい」の出版です。また同年には東京のバルディース研究会が企業の環境対策をアンケートしその結果をまとめた「グリーンコンシューマーレポート」が出版されています。いずれも市民による調査・出版活動で、その後、全国各地で「買い物ガイド」が作られるようになりま

した。そして、96年2月に、環境省(当時)の呼びかけにより、グリーン購入の取り組みを促進することを目的に「グリーン購入ネットワーク（Green Purchasing Network 略 GPN）」が設立、2001年4月には「グリーン購入法（国等による環境物品等の調達に関する法律）」が施行され、国等の公的機関が率先して環境負荷の低い製品やサービスを購入することが義務付けられました。地方自治体にもグリーン購入を促進する努力義務が定められており、グリーン購入への取り組みは地方自治体にも広がっています。

先に紹介した「グリーン購入ネットワーク（GPN）」は、企業・行政・消費者の緩やかなネットワークで、全国の多種多様な企業や団体が同じ「購入者」の立場で参加しています。2006年8月現在、2,845団体（企業 2,266、行政 297、民間団体 282）の会員（当会も今年度より会員）で構成されています。また、宮城、京都、滋賀、三重、福井、石川、鳥取、徳島では地域組織が活動しているほか、2005年4月に「国際グリーン購入ネットワーク」が設立され、世界規模でグリーン購入が推進されています。

GPNのHPには、「グリーン購入ガイドライン（商品分野ごとの購入指針）」や「GPNデータベ



ース（各商品の環境情報一覧表）、「エコチャレンジホテル」、自治体や事業者の「取り組み事例」等、グリーン購入に取り組む際に参考となる情報が多数掲載されています。興味のある方は、ぜひご覧下さい。

参考：グリーン購入ネットワーク

（GPN：<http://www.gpn.jp/>）

環境市民 グリーンコンシューマー活動：

（<http://www.kankyoshimin.org/jp/mission/lifestyle/index.html>）

12月は 「地球温暖化防止月間」

広報部 鎌田 裕二

京都で開催された「気候変動枠組条約第3回締約国会議(COP3)」をきっかけに平成10年度より毎年12月を「地球温暖化防止月間」と定め、日本各地でその主旨にそつ



た取り組みが行われる。10月の環境省の発表によれば2005年度の温室効果ガスの総排出量(速報値)は基準年(原則1990年)の総排出量と比べ8.1%上回り、前年度の総排出量と比べると0.6%増加している。現状以上の温暖化防止への取り組みが必要であることは自明である。

なお「神奈川県温暖化防止活動推進センター」では12月17日(10時から17時)の予定で「温暖化防止の集い」を横浜市開港記念会館(中区本町1-6)で開催する。

「1億2千万」

グリーン部会 鎌田 裕二

「1億2千万」とは日本の人口ではない。年間に日本国内で消費(購入)される傘の本数である。その内、国産は2000万本。その他は輸入品である。年間ひとり一本の傘を買っていることになる。それは裏返すと捨てる数ではないか。雨風の強い日の翌日に、折れて捨てられた傘を道端で見つける度に心が痛む。100円ショップでも傘が買えるようにな

り久しく、傘の修理屋さんも町から消えた。いつのまにか傘も「使い捨て」になってしまったようだ。もう少し大事に傘を使いたい。

(上記数値は「日本洋傘振興協議会」推定値)



☆☆

会員の広場

神奈川県環境科学センター 第15回業績発表会に参加して

岩下 次郎(藤沢市)

居住地は平成12年、環境基準の8,100倍のダイオキシンを7年もの間、流失していた事業所を道路ひとつへだてた所にある。元自治会会長でリーダー会でも熱心に化学物質削減に取り組んでおられる、立石定巳さんのお勧めもあり、会場が駅から3分の利便性に出先から立寄ったが、飯田所長のご挨拶が始まっており冷や汗をかいた。とにかく研究者の発表会は専門性が高いゆえ聴き応えのある反面、市民意識との乖離が気になるものだが、今回は前段を環境情報の一般的入手方法と、化学物質の安全性について、これでもかの領域まで凝縮したものであった。後半は専門テーマと変わり、一般の保険の適用からも除外され、30年来放置されてきたアスベスト問題に県が関わった報告と、地味で根気を要する県内河川の底生外来種分布調査報告の二題。日本のアオ

コが米西海岸に生息の報道もあり、人や物資がこれほど行き交う時代、温暖化などの相乗的な要因もあるだろうが、外来種問題は環境学習を充実させ、定性監視しか方法はあるまい。不特定多数の参加者を、おし測るとすれば質問内容にあり「ダイオキシンの総量規制を国に圧力掛けるべき」論などは、ことの是非はさておき、知識レベルが高い方々が集まっていたとの印象をもった。それにつけても思い出す。環境学習時代「身近な化学物質」を環境工学部の坂本広美主任研究員が物質のベンゼン環を説明中「専門すぎる」との声が挙がり中断した記憶をもつ。藤沢の流失事件の際、地元の環境団体が催した休日の早朝学習会で、当時県の課長だった環境科学センター 武 繁春前所長がニンジン、大根、リンゴの角切りを楊枝で繋ぎ、立体的にダイオキシンの発生メカニズムを説く場面を目の当たりにし、一代の碩学、希有の人材とはこうした方々を表すのかと目を見張ったものだ。環境問題への関わり方は、阿部謹也元一橋大学長が唱えられていた理系文系の枠を外した、リベラルアーツ探求にあると改めて考えた次第。

「酒匂川水系の水生動物」の発刊に思う 里地・里山の生きものたち

酒匂川探水隊 齋藤 昭一

先日（平成 18 年 10 月 27 日金曜日）平塚市スカイプラザにおいて神奈川県環境科学センターによる第 15 回業績発表会がおこなわれた。そこで「昔はいなかった川に外来種が出現」ー市民との低生動物協働調査からみた水環境の変遷。石綿 進一研究員（環境保全部）による素晴らしい講演があった。氏と同僚の淡水魚の研究で著名な齋藤 知久研究員、（環境保全部）わが酒匂川探水隊の盟友杉崎 茂氏と席を同じくして拝聴した。

氏の発表の中で今までの分布状況にくわえて（2004～2006）におこなわれた調査の新しい分布図が発表された。そのなかで「調査は筆者及び酒匂川探水隊他との協働調査により・・・丹沢山地を水源とする河川（相模川、酒匂川、金目川）を中心に実施し、玉網などを使用する「みつけ採り」で外来種の有無を確認・・・。そして今まで認められていた生息地以外にも、多くの地点で外来の底性動物が確認され・・・その分布は丹沢山地の溪流にまで広がっていることが明らかになった。・・・」と述べられました。

先月冊子が送られてきました「酒匂川水系の水生動物」の本でした、もちろん差出人は石綿研究員でした。あまりの素晴らしさとその内容の新鮮さ斬新さに驚くと共に神奈川県内の河川にとどまらず全国区サイドで利用されるもの、未来の子供達に「生存する、あらゆる生物において絶対に必要なもの水、欠かす事のできないもの水」・・・その水環境保全運動における最大の教科書ができた喜びました。

おもえば 2002 年秋でした。K・リーダー会の中にモニタリング部会が発足し、そのなかに酒匂川の水生物の調査の部門を「小田原メダカ保存会」の中心者である杉崎氏とともに立ち上げたのでした。いまでも思い出します、2003 年 4 月 JR 鴨居駅 9 時集合、そして酒匂川河口の大橋の下で初めての水生生物の採集するための勉強会をおこないました。はじめて胸まではいるロング長靴をはいてソロリ、ソロリと川にはいって行く人、玉網を沈めてはやたら足をバシヤ、バシヤと所かまわず頑張る人、なかには始めて川にはいると言う人もいました。そんな中で網の使い方、獲物のいるところ、保存の仕方、はてはラベルの書き方つけかた、までこと細かに石綿研究員を中心として勉強したものです。

そんな仲間達もいつか一人前の水環境部会員とし

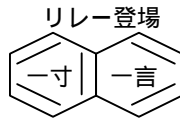
て成長して巣立っていきました、そんな中で特別な思いがあります、始めて参加した安丸氏が用水路のなかで「アカハライモリ」（本誌 p.2 掲載写真）2 匹同時に採集したことです、絶滅種にみられるほどに少ないものでしたから驚きました。さらには今、最大の話題になっている「アメリカフロリダマミズヨコエビ」（本誌 p.80 掲載写真）この外来種を酒匂川用水路のなかで最初に発見したのは杉崎氏でした。やがて探水活動も進んで 2004 年には水環境部会も発足し「外来種調査」の活動が本格化しました。県環境科学センターの要請で新しい冊子の制作のお話を伺ったのもその頃でした、私もたいへんな大手術をした後でウエーダーを履く事さえ苦痛な時期でありましたが酒匂川探水活動も進んで上流の鮎沢川、河内川に入りました、古谷氏の水先案内によるものでした。完璧なる事前調査がおこなわれているため何の支障も無く探水作業は進みました、そんな時感動した事があります、丹沢湖の下で神縄断層を見ることができたことです、丹沢層群と足柄層群との境界です、本州と丹沢島の 600 万年前に衝突した現場を目の当りにしたのです、こんなにも嬉しく感動した事は久しくありませんでしたのでとても嬉しかったです。

素晴らしい冊子の出版にあたり私たちの名前が永遠に留められることとなった、それぞれが自分の名前を見てどんな思いを抱くであろうか、今後自分の進むべき道はどうあるべきであろうか？ここは真摯にみつめていただきたいのである。月月日に退することなく水環境部会の旗を高く掲げて前進していきたいものである。特に酒匂川探水隊、水環境部会員は尚いっそうの研鑽努力をして励んでいきたいものである。さらには平成 19 年度よりは新たに環境科学センターが中心となり石綿研究員、齋藤研究員のもと相模川、酒匂川を中心とした「川の連続性」についての調査が新たに 5 ヶ年計画で始まるのである。部会員の参加は当然ながら、K・リーダー会の皆さんもぜひ参加してください。人類にとってかけがえのない水、そのための学習をともに楽しんで行きたいとおもいます。

（編集注：本文で紹介された「酒匂川水系の水生動物」は県庁県政情報センター売店（第二分庁舎 1 階、電話（045-210-3683）で頒布（有料））



1 回生も元気です



古澤 正文 (茅ヶ崎市)

1 回生の古澤でございます、6 回生の荒谷さんからリレーが回って来ました、日頃なにもしておりませんので、お礼のつもりで少し書きました。1 回生というのは平成 5 年の 9 月から 10 月にかけて、39 名の受講者が集まり環境問題を学習しましたが、もう既に環境問題に取り組んで、各地で団体を組んで活躍しておられた人とか、小中学校の先生方、それに企業の環境保全担当の方は、夫々の活動に戻られ、残った人で引き続き環境学習を希望する人たちが、たしか会の名前をつけて、活動した仲間なのです。もう 13 年経ちました、佐伯秀夫さん、斉藤昭一さん、草野郁大さん、花上友彦さん、猪股満智子さん、加藤正彦さん、川嶋庸子さん、橋浦敬子さん、森山多津子さん、と私と、10 人が名前を連ねております。K・リーダー会には籍を置いておりませんが、県下各地域や団体で活躍している人たちは大勢おられますが、長谷川卓史さん、桑垣美和子さん、立林桃子さん、寺島道代さんも皆 1 回生の人たちな

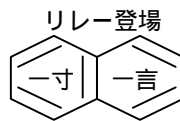
んです。地域でもし、会われることがありましたらよろしくお伝えください。

次に「リ・ウッドクラブ」のことを少し紹介させていただきます。ダンボールをリサイクルして作った紙管原紙を使って、丸く巻けば丸紙管となって、巻き芯として広く使われています、四角く巻くと角紙管となって、梱包用木材の代わりや、パレット材に使われています。木材に代わるくらい丈夫で、中空なので、これをクラフトの世界で使うことをやっているのが「リ・ウッドクラブ」なのです。毎年夏、環境科学センターで開かれる「子供環境教室」で「写真立てを作ろう」をやって来ました、これも細い角紙管を使って作り、リサイクルした紙もこんなに丈夫なんだ、ということを知って貰おうというのに利用しております。これからも色々なイベントで、工作コーナーとして子供集めには面白いと思いますので、覚えておいてください。

この「リレー登場、一寸一言」、次は 2 回生の安部洋子さんをお願いいたします。



湯河原から皆様へ



矢崎 裕美 (湯河原町)

私は何の因果か排気ガスの化学物質過敏症になってしまい、生まれ育った小田原を後にして、神奈川県西の果ての湯河原に引越してきて早、半年が経とうとしています。

ここは山の上なので今まで見たこともない虫たちに出逢えます。ある時は蜂が一泊して電燈のコードにつかまって眠る姿を見たり、カマキリが羽根をずらして何をするのかと見ていたら、フンをする瞬間をみたり、自然の縁深い所にいると、生物の多様性が見られ生態系が守られていると感じます。一方下界でいられるのは耐性のついた害虫と呼ばれる虫たちが多いような気がします。

今、環境で問題になっていることでワースト 2 は地球規模の化学物質汚染と乱開発による自然破壊だと思います。自然の再生能力を上回るこれらのダブルパンチに地球は悲鳴をあげているのに、一般の人はそれらをウスウス感じてはしながら対岸の火事と思いきな消費に日々を費やしているように思

えてなりません。生態系はもう足元から崩れてきているのに、です。

今の生活を昭和 30 年代の暮らしに戻せばエネルギー (CO₂ 排出)、ごみ問題が解決すると言われていますが、これだけ多様な都市型消費生活になり、当時の人間＝農業人口が大半を占め自然との共生を日々行っていた人々の知恵が生きていた時代と、今の IT 化＝標準化＝マニュアル化すれば安心と皆がそれにのっとなって【頭だけ】に偏っている人間の社会では生きた木の幹のような本当の改善が生まれて来にくいのではないかと思います。

ともあれ世の中の不完全なものだからそれを日々改善していくことで進歩していくと誰かが言っていました。しかし今は化学物質たれ流しの現状があり、片やそれを抑制しようという製品や技術を代替として普及させ少しでも化学物質を押さえ、車に頼らない生活をしたり物流を貨物列車に替えたり都市部に緑を増やしていく工夫が必要かと思われま

す。今回はソーラークッカーの普及に力を入れていらっしゃる 狩野光子さんをお願いします。



掲示板

■広報部からのお知らせ

この会報が皆様に届くのは12月。日に日に寒さが厳しくなって来ます。今号の表紙表題のイラストはグリーン部会に所属され環境に優しい買い物を主題とする「紙芝居」の作成をされた米山さんからイラストを提供していただきました。

季節を感じる絵です。手袋・マフラーはこれからの寒さに「暖房温度は何度に設定しましょう」と空調を前提とした国民に対するキャンペーンより、まずは自分自身が暖かくなるのが大事でありそのための過去からの工夫への尊重の気持ちが込められているのでしょう。

この「さざんか」の絵も米山さんによるものです。



このように会報発行は「広報部員」のみで可能なわけではなく「会員」の皆様の様々なご協力によって成り立っています。

広報部に専任で所属されなくともご自分の好きな分野でのご協力がかまいません。広報部へのご支援を広く会員の皆様をお願いいたします。

例えば；

- ・記事の投稿（ご自身の活動・研究紹介）
- ・発行作業の手伝い
- ・取材を試してみたい

ご興味があれば是非広報部までお知らせください。

また会報やホームページへのご感想、ご要望があれば是非とも広報部にお知らせください。皆様にとって価値ある会報にしたいと思います。

会報は基本的に毎奇数月の月末の週末に発行作業を行います。次回の作業日は確定していませんが1月末になるでしょう。原稿の締め切りはそれに先立ち1月15日です。皆様のご協力を改めてお願いいたします。

(広報部長 鎌田 裕二)

編集後記

私が「環境実践者養成講座」を修了しK・リーダー会に入会して早くも1年が過ぎた。受講を申し込み、受講している最中にはリーダー会の事は知らなかった。

幸いにも、入会后直ぐに「グリーン部会」の活動で小学校での環境教育の準備と実施の機会に恵まれた。その現場の小学生たちはとても素直であった。しかしそれは一方で小学生たちが大人になるころの環境をさらに心配する事となった。

その後は他の部会や、広報部の活動へ参加した。今年度の研修終了後にK・リーダー会へご入会された方には今号は最初の会報と思う。今後各部会の活動がさらに積極的なものになることを願う。そのためには会員の皆様の参加が必要であり、参加により与えるもの、得るものは計り知れない。

次の一年が自分にとってまたK・リーダー会にとってどんな一年になるのか楽しみである。

広報部 鎌田 裕二

発行人：神奈川県環境学習リーダー会
代表 安丸 元一

編集人：広報部長 鎌田 裕二

TEL/FAX 046-272-7021

発行日：2006年12月3日

ホームページ：

http://members.at.infoseek.co.jp/k_leader/

